

◇ 利用等に関するアンケート調査について

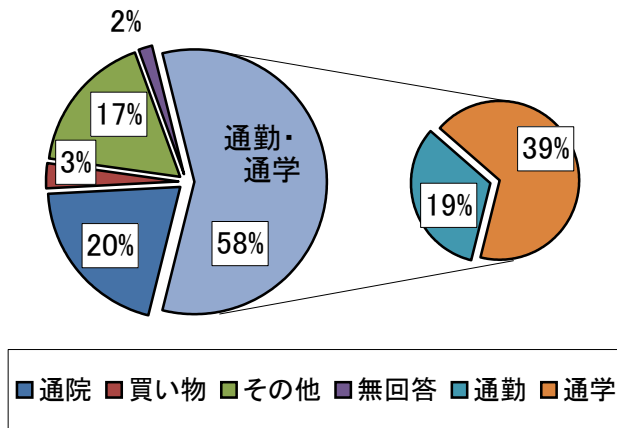
調査概要

1 調査（回答）者数

- ◇ 回答数 64人(男性:20人、女性:36人、無回答:8人)
- ◇ 年齢 20代以下:29人、40代:3人、50代:7人、60代:7人、70代以上:18人

2 利用目的

- ◇ 通学の利用者が約40%。通勤、通院を合わせ、約8割が日常生活に利用。



調査一覧表

		合計	年齢							性別			
			20代以下	うち中学生		30代	40代	50代	60代	70代以上	男	女	無回答
				うち中学生	うち高校生								
計	回答者数(人)	64	29	4	13	0	3	7	7	18	20	36	8
	構成比(%)	100.0	45.3	6.3	20.3	0.0	4.7	10.9	10.9	28.1	31.3	56.3	12.5
金井山線	回答者数	16	2	0	0	0	2	3	3	6	4	12	0
	構成比	100.0	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	18.8	18.8	37.5	25.0	0.0	
松代篠ノ井線	回答者数(人)	37	21	0	11	0	1	4	3	8	13	16	8
	構成比(%)	100.0	56.8	0.0	29.7	0.0	2.7	10.8	8.1	21.6	35.1	43.2	21.6
青池線	回答者数(人)	11	6	4	2	0	0	0	1	4	3	8	0
	構成比(%)	100.0	54.5	36.4	18.2	0.0	0.0	0.0	9.1	36.4	27.3	72.7	0.0
行先別	松代～篠ノ井(人)	20	10	0	4	0	1	1	2	6	7	11	2
	篠ノ井～松代(人)	17	11	0	7	0	0	3	1	2	6	5	6
行先別	村山～篠ノ井(人)	7	5	4	1	0	0	0	0	2	2	5	0
	篠ノ井～村山(人)	4	1	0	1	0	0	0	1	2	1	3	0

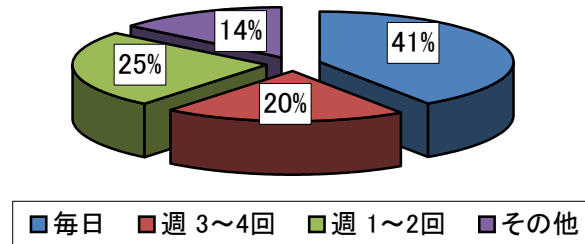
< 調査一覧表 >

注1 構成比について、計と内訳は四捨五入の関係で一致しない。
 注2 「年齢」の「うち中学生」及び「うち高校生」は、明確に記載してあったものを集計した。したがって、「利用目的」の「通学」と一致しない。
 注3 利用目的「その他」は、複数回答を含む。

		合計	利用目的						利用頻度				代わりの交通手段				
			通勤・通学	うち通学	買い物	通院	その他	無回答	毎日	週3～4回	週1～2回	その他	無い	自家用車	他の路線	家族送迎	無回答
計	回答者数(人)	64	37	25	2	13	11	1	26	13	16	9	37	4	4	18	1
	構成比(%)	100.0	57.8	39.1	3.1	20.3	17.2	1.6	40.6	20.3	25.0	14.1	57.8	6.3	6.3	28.1	1.6
金井山線	回答者数	16	8	0	0	2	6	0	3	6	6	1	7	4	4	1	0
	構成比	100.0	50.0	0.0	0.0	12.5	37.5	0.0	18.8	37.5	37.5	6.3	43.8	25.0	25.0	6.3	0.0
松代篠ノ井線	回答者数(人)	37	23	19	2	8	3	1	19	3	9	6	26	0	0	10	1
	構成比(%)	100.0	62.2	51.4	5.4	21.6	8.1	2.7	51.4	8.1	24.3	16.2	70.3	0.0	0.0	27.0	2.7
行先別	松代～篠ノ井(人)	20	10	8	1	5	3	1	8	3	5	4	13	0	0	7	0
	篠ノ井～松代(人)	17	13	11	1	3	0	0	11	0	4	2	13	0	0	3	1
青池線	回答者数(人)	11	6	6	0	3	2	0	4	4	1	2	4	0	0	7	0
	構成比(%)	100.0	54.5	54.5	0.0	27.3	18.2	0.0	36.4	36.4	9.1	18.2	36.4	0.0	0.0	63.6	0.0
行先別	村山～篠ノ井(人)	7	5	5	0	2	0	0	4	1	0	2	0	0	0	7	0
	篠ノ井～村山(人)	4	1	1	0	1	2	0	0	3	1	0	4	0	0	0	0

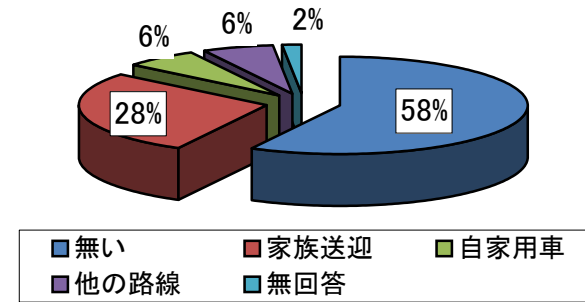
3 利用頻度

- ◇ 毎日の利用者が最も多く、バスの利用は、日常的利用者が主です。



4 代わりの交通手段

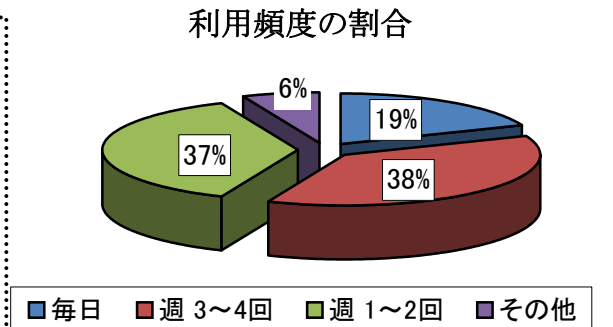
- ◇ 「代わりが無い」、「家族の送迎」が86%。交通弱者の対応が必要。



各路線の特徴

1 金井山線

3路線の中で最も利用者の多い路線であるが、アンケートの集約数が少なく若干の問題がある。しかし、アンケート集計では、各年代層で利用されていることがうかがえます。また、「利用頻度」では、「週1～2回」及び「週3～4回」の利用が多いものの、「利用目的」では、「通勤・通学」の利用者が50%と地域の重要な交通路線として利用されていることがわかります。

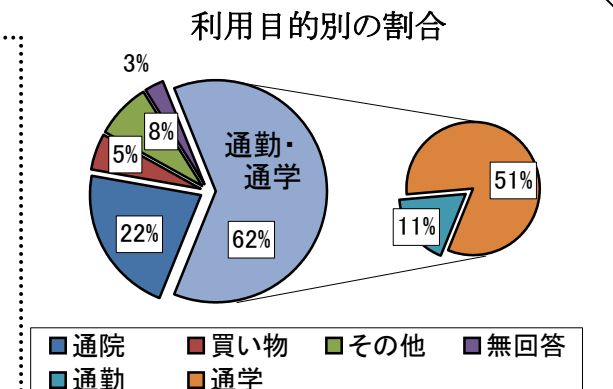


< 主な意見 >

- 是非継続をお願いしたいが、厳しい状況であれば、全面廃止はやめて、「減便」や「通勤時間帯だけの運行」などの対策をお願いしたい。
- 生活路線であるバスが無くなると困る。市や県も存続に向け更なる取組をお願いしたい。

2 松代篠ノ井線

年齢構成を見ると、20代以下が57%を占め、「利用目的」、「利用頻度」を見ると、「通学」が50%を超え、更に、「毎日」の利用が50%を上回っている。こうしたことから、高校生等の通学に無くてはならないことがうかがえます。また、アンケート内容を見ると、松代、篠ノ井にある総合病院への通院の利用者も多く見られます。なお、「代わりの交通手段」の問いに対しては、無回答の1人を除き、他は「無い」及び「家族の送迎」と回答しています。

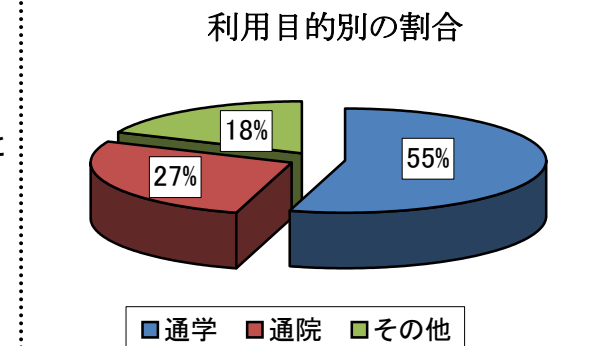


< 主な意見 >

- 地域で路線の存続・廃止について考えて行きたい。地域との話し合いを行って欲しい。
- バスを小型化してでも継続して欲しい。

3 青池線

中学生も利用している路線であり、20代以下と60代以上(60代1人、70代以上4人)の方からの回答で分かったとおり、交通弱者の利用が多路線であるといえます。こうしたことから、「代わりの交通手段」の問いに対しては、100%が「無い」及び「家族の送迎」と回答しています。なお、「利用目的」の問いに「その他」として2人が回答しているが、「買い物」、「通院」、「その他」と回答しており、< 主の意見 >に記載したとおり、日常生活の唯一の足として利用されていることがうかがえます。



< 主な意見 >

- 日常生活(買い物や通院等)の唯一の足である。是非、残して頂きたい。